



NPOファシリテーションきたのわ

平成 25 年度地域活動支援事業（まちづくり推進事業）報告書



設立年月日 2010年4月

会員数 16名 (2014年2月時点)

会員の主な活動地域は、
札幌市、江別市、安平町、滝川市、東川町、
釧路市、北見市、弟子屈町、稚内市、函館市
など

きたのわの会員とは…

地域や活動のなかで参加型の場づくりやファシリテーションを実践している、もしくはこれから実践していきたい人。(ファシリテーションに関する知識や技術の取得、会員間の交流のみを目的とした入会はできません。)現在は、各地域で活動している NPO 団体に関わる人がほとんどです。会員に関わるまちづくりの取り組みやファシリテーションの現場などについて、具体的な情報の共有と意見交換を行います。会員には積極的な情報発信、提案や意見を願っています。(年会費 5000 円)



大事にしていること

当団体の会員は、ミッションを達成するための仲間です。北海道内各地で活動している会員がファシリテーションで地域の課題を解決していくためには、知識や技術だけではなく実践現場における経験を積むことが大切だと考えます。きたのわでは、研修や学習会の場において進行補助や運営補佐として関わる事が出来る OJT 制度を設け、共に学びあえる実践的な学習の機会をつくっています。

※OJTとは: on the job training の略。実務経験を積むことにより、必要とされる技術や知識を身につけるトレーニング方法のこと。

ミッション (使命)

住民が対話を通じて
地域やコミュニティの課題を解決していく
社会の実現を目指します。

そのために私たちは、
北海道の NPO が行動を生み出す
参加型の場づくりについて学び、
実践することを支援します。

これまでの活動実績〔2013年度の一部〕

【現場での話し合いやワークショップの進行】

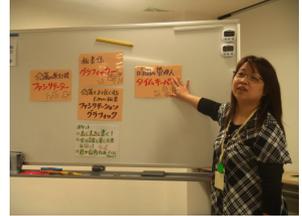
- ・「商店街みらい会議」にてワークショップの進行（札幌市）
- ・「若手コミュニティコーディネーター養成講座」にてワークショップ全6回の進行（NPO 法人コミュニティワーク実践研究センター他）
- ・「江別港座談会」にてワークショップ全3回を進行（江別港）
- ・「コトニまちづくりワークショップ」にてワークショップ全3回を進行（土曜コトニ実行委員会）
- ・「東神楽町地区別まちづくり会議」にてワークショップ全4回の進行（東神楽町）

【講座や研修会における講師】

- ・「会議が変われば世界が変わる世界を変えるファシリテーション」講師（北海道大学 IFES-GCOE 環境教育研究交流推進室）
- ・「みんくるワークショップ」講師（滝川市まちづくりセンター）
- ・中間支援センタースタッフ研修にて「会議の進め方」講師（北海道立市民活動促進センター）
- ・「ファシリテーション講座」講師（YMC若手経営者実践研究会）
- ・「厚別 PTA 連合会元気アップミニ講演会 会議上手になりませんか？」講師（厚別 PTA 連合会）
- ・「会議のコツ」講師（札幌市市民活動サポートセンター）

【自主開催講座や勉強会】

- ・「人生の命題を考える3時間（青木将幸氏）」を企画開催
- ・「きたのわ全道交流会 2013」を開催



平成25年度まちづくり推進事業 地域のステークホルダーとの話し合いの場づくり
～道南地域におけるファシリテーション講座～

取り組み内容

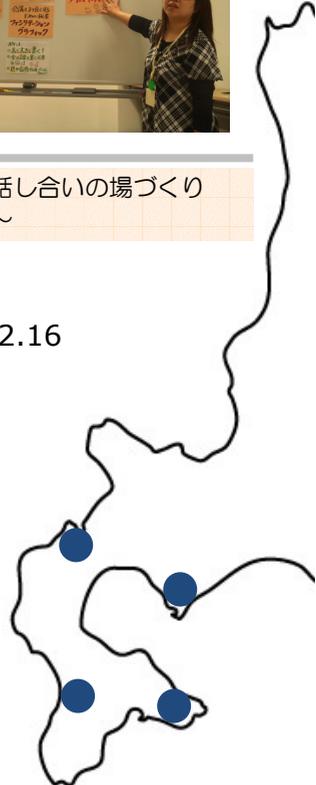
まちづくりの重要な担い手である地域住民やNPOが、行政や地域組織と連携して地域課題を解決していくことは、住みよい地域社会の創造に有効な方法です。そのためには、地域の多様なステークホルダー（住民、行政、関係機関、団体等）が参加する参加の場づくりと組織の枠を超えて新しくつながり、対話の中から地域の創造性を高めていく必要があります。今回は、道南エリアを中心に地元の行政、協力団体とともにまちづくりを主体としたファシリテーションを学び実践する講座を開催し、新しい時代に相応しいネットワークづくりを目指します。

Hakodate 2013.12.16

Esashi 2014.1.19

Suttu 2014.1.20

Muroran 2014.2.8



報告 1. 函館ファシリテーション講座「地域の多様な人々が参加する話し合いの進め方」

【日時】
2013年12月16日(月)13:00～17:00

【会場】
函館市地域交流まちづくりセンター
(北海道函館市末広町4番19号)

【講師】
宮本 奏(NPO ファシリテーションきたのわ)、東田 秀美(NPO 法人旧小熊郵便倶楽部)

【協力】
函館市地域交流まちづくりセンター、一般財団法人北海道国際交流センター

【参加人数】11名

【プログラム】
13:00～13:10(10分)
1. オリエンテーション

13:10～13:55(45分)
2. 長期間で多様な人が集まる会議とは？

13:55～14:10(15分) 休憩

14:10～16:45(155分)
3. 会議の進行にチャレンジ！

16:45～17:00(15分)
4. 全体振り返り



取組み・成果

●ファシリテーションに関する講座が函館で多く開催されるなかで、今回きたのわとしては初めて応用編の実施に挑戦した。

●今回の協力団体でもある、一般財団法人北海道国際交流センターがスタッフ研修の一環とし、9名の参加があった。そのうち1名が会員となった。

課題

●応用編として実施したが、参加者のなかには基礎から学びたかったという声もあり、最初から応用編としてのねらいをしっかりと伝え、対象者を限定して広報をすべきだった。

●今後も応用編を団体のプログラムのひとつとして実施していくために、きたのわ会員で応用編の見直しの機会を設ける必要がある。

報告 2. 江差ファシリテーション講座「地域で円滑に進める話し合いの作り方」

【日時】
2014年1月19日(日)10:00～13:00

【場所】
壱番蔵
(檜山郡江差町字姥神町42-3)

【講師】
宮本奏(NPO ファシリテーションきたのわ)、松田剛史(ソーシャルベンチャー あんじょう家本舗)

【協力】
江差町歴まち商店街協同組合

【参加数】14名

【プログラム】
10:00～10:10(10分)
1. オリエンテーション

10:10～10:40(30分)
2. 自己紹介ワーク

10:40～11:00(20分)
3. 困った会議と理想の会議

11:10～11:50(40分)
4. 会議を観察しよう

11:50～12:00(10分)
5. 会議の基礎知識

12:00～12:45(45分)
6. 会議を実践してみよう

12:45～13:05(20分)
7. ふりかえりとまとめ



取組み・成果

●ファシリテーション自体がこれまであまり馴染みのあるものではなかったということから、情報の周知や参加者集めには草の根の活動も試みながらも、振興局の職員参加も含めて、ほぼ想定された参加者数によって開催することが出来た。

課題

●講座内容を必要とする事業所や個人に情報を周知できるよう、あらかじめリサーチすることも必要となる。

●参加者の状況をみながら適切にプログラム進行を調整できていたのはよかったが、時間に余裕をもたせたプログラムづくりも参加者の学びを深めるには重要な視点になる。

報告 3. 寿都ファシリテーション講座「地域で円滑に進める話し合いの作り方」

【日時】

2014年1月20日(月)18:00～21:00

【会場】

寿都町総合文化センターウィズコム
(寿都町字開進町 187-1)

【講師】

東田秀美(NPO 法人歴史的・地域資産研究機構)、橋本正彦(NPO 法人えべつ協働ねっとわーく)

【協力】

NPO 法人歴史的・地域資産研究機構

【参加人数】

30名

【プログラム】

- 18:00～18:10(10分)
1.オリエンテーション
- 18:10～18:20(10分)
2.自己紹介
- 18:20～18:40(20分)
3.「楽しい会議」と「困った会議」とは？
- 18:40～19:30(50分)
4.会議を観察しよう！
- 19:30～19:40(10分) 休憩
- 19:40～20:00(20分)
5.会議の基礎知識
- 20:00～20:50(50分)
6.会議の進行にチャレンジ！
- 20:50～21:00(10分)
7.振り返り



取組み・成果

- 寿都町役場内の回覧メールの効果で、30名近くまで増えた。一つの組織から多くの人々が参加すると、その効果も期待ができる。
- 近隣で活動されるNPOの方々も参加しており、このような講座の地方でのニーズを実感した。

課題

- 近隣から参加されたNPOの方は、今後まちづくりに積極的に取り組みたいと考えており、会議の進め方を知りたいと思って参加された。その後の取組状況や問題などを気軽に連絡できる環境を作り、フォローをしながら講座を実施した地域とのつながりを強化していくことが重要である。

報告 4. 室蘭ファシリテーション実践講座「地域で円滑に進める話し合いの作り方」

【日時】

2014年2月8日(土)15:30～17:00

【会場】

室蘭市民会館
(室蘭市輪西町 2-5-1)

【講師】

松田剛史(ソーシャルベンチャーあんじょう家本舗)、橋本正彦(NPO 法人えべつ協働ねっとわーく)

【協力】

室蘭市民活動ネットワーク

【参加人数】14名

【プログラム】

- 15:30～15:40(10分)
1.オリエンテーション
会議の基礎知識
- 15:40～15:50(10分)
2.会議の実践①: 作戦タイム
- 15:50～16:15(25分)
3.会議の実践①: 実践と振り返り
- 16:15～16:25(10分)
4.会議の実践②: 作戦タイム
- 16:25～16:50(25分)
5.会議の実践②: 実践と振り返り
- 16:50～17:00(10分)
6.まとめ



取組み・成果

- 室蘭の中間支援組織と連携を取りながら進めたが、その事務局からも核となるスタッフが参加した。こうした組織ではまさにファシリテーションが必要であるため、今後のつながりが期待できる。

課題

- 実践編の講座を行う場合であっても、基礎的な部分は共有してから始める必要を感じた。最低でも模擬会議の観察と、会議の基礎知識は踏まえた上での実践が望ましい。

事業総括

昨年の道東 4 地域に続き、今年は道南 4 地域で講座を開催することができた。今年も北海道内のファシリテーション事情を知るために自分たちの足で歩き、NPO や行政など地域で活動している方々に直接お会いし、ファシリテーションを学ぶ機会が求められていることを実感した。そのような声に応えられる今後の組織の体制について改めて考えるきっかけを得ることができた。

現地の中間支援団体のチカラが必要！

江差講座においては、函館市地域交流まちづくり交流センターの広報協力が不可欠だった。室蘭講座は、室蘭市民活動センターと主催で開催したことで参加者を集めることができた。どちらも以前に講座を受講した職員がおり、参加者申込み状況の確認や広報の対策を相談した。今後も地方で講座を開催する際は、そのエリアにある中間支援団体と協力して実施していきたい。



初めての応用編から見えてきたもの

函館での応用編の挑戦は、自主講座という機会だからこそ取り組むことができた講座だった。当団体らしい応用編の講座のプログラムとは何かという問いに向き合い、当団体が目指していきたいファシリテーションの姿を改めて確認できる作業となった。



その後のフォローとして 自主勉強会ができる仕組みづくりを

昨年の振り返りを活かして、今年はその後のフォロー体制のひとつとして、今後もファシリテーションに関する講座や情報が欲しいひとには不定期に情報発信をする体制をつくった。将来的には、道東、道南などエリアごとに会員と受講生をつなぎ、自主的な勉強会を開催できるような仕組みをつくりたい。





北海道で行動が生まれる 参加型の話し合いの場を 実践していくために、このよ うな取り組みをしています。

現場を観て、 現場で実践する機会をつくる

研修や講座において進
行補助や運営補佐とし
て関わることができる
OJT制度を設け、共に
学びあえる実践的な学
習の機会を作っていま
す。

実践現場で活かせる 学習の機会をつくる

主に会員を対象とし
た、実践現場の悩みに
直結する学習交流会
を企画・実施していま
す。

まちづくりのワークショ ップを組み立て、実践する

道内の市町村で条例や
総合計画をつくる際に、
必要な町民の意見を入
れる場づくり（ワークシ
ョップ）の組立て・進行
をしています。

行動が生まれる 参加型会議の講座をする

地域のNPOや行政職員
に、ファシリテーション
に関する講座や研修を
しています。





NPOファシリテーション

きたのわ

NPOファシリテーションきたのわ

<http://www.facebook.com/kitanowa>

<http://kitanowa.jimdo.com/>

この講座は公益財団法人北海道地域活動振興協会が行う平成25年度まちづくり推進事業として採択を受け実施しました。